

〔文献紹介〕 松本歯学 20 : 80~99, 1994

key words : 野口英世 — 伝記 — 第3報

松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記（第3報）

矢ヶ崎 康

松本歯科大学創立者

加藤倉三

松本歯科大学名誉学長

枝 重夫

松本歯科大学口腔病理学教授

A Collection of the Biographies of Dr. Hideyo Noguchi
in Matsumoto Dental College (3rd report)

YASUSHI YAGASAKI

The Founder of Matsumoto Dental College

KURAZO KATO

Honorary Dean of Matsumoto Dental College

SHIGEO EDA

Professor of Oral Pathology, Matsumoto Dental College

Summary

In the previous papers 176 books and journals regarding the biography of Dr. Hideyo Noguchi were reviewed (Matsumoto Shigaku, Vol. 13, pp. 1~34, 1987 : Vol. 15, pp. 217~231, 1989). In addition to these, 58 books and journals, including the following 3 important books, were introduced in this paper.

- 1) Hokari, Y. : A Tasteful Biography of Great Men.
Daikyosha, Tokyo, 1931
- 2) Masaki, F. : A Benefactor of the Humans, Hideyo Noguchi.
Shinchosha, Tokyo, 1936
- 3) Kobayashi, S. : Memories of Hideyo Noguchi.
Iwanami-Shoten, Tokyo, 1941

はじめに

野口英世関連の伝記類について、正篇（これを第1報とする、1987年）¹⁾で119種142冊、続篇（補遺、これを第2報とする、1989年）²⁾で29種34冊を

記録した。今回はその後に蒐集できた51種58冊について紹介する。

記載の方法は、第2報と同様に、すべてを年代順とし、文献番号と図番号は前回の継続とする。

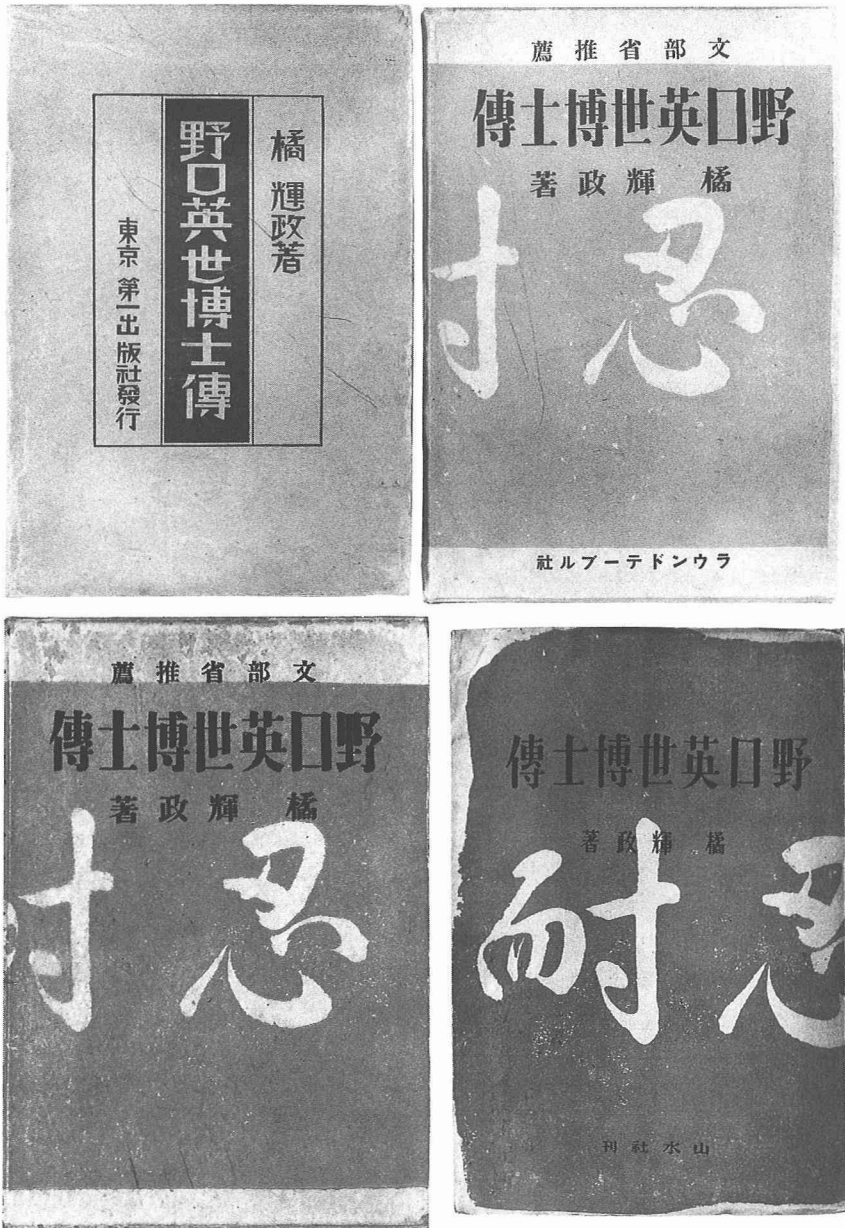


図112：橘口輝政：野口英世博士伝。

上左：初版 第一出版社，1929〔第1報の22〕（ケース）

上右：16版 ラウンドテーブル社，1939（ケース）

下左：30版 山水社，1942（ケース）

下右：戦後2版 山水社，1947〔第1報の23〕

野口英世関連の伝記

148) 橘 輝政：野口英世博士伝，210頁。ラウンドテーブル社，東京，1939（図112上右）。クロス，ケース付。第1報の22）が初版で（図27；図112上左），本書は第16版である。発行所が第一出版社からラウンドテーブル社に変わったのに版数をそのまま継続しているのが面白い。もっとも発行者名が同じである。本書はまた“野口博士記念館落成記念出版”（奥付）で，文部省推薦図書に選ばれた。初版と比較すると，口絵写真も多数追加され，本文もかなり追加（若干の削除もある）されているところは日本の書物としては珍らしい。なおこの3年後の1942年に第30版が出版されているが，発行者名は同じなのに発行所が山水社と変っている（図112下左）。

149) 橘 輝政：新版野口英世博士伝，208頁。ハードカバー（背クロス），カバー付。第一出版株式会社，東京，1953（図113）。前記の野口英世伝はその後敗戦直後に山水社から再刊されたが〔第1報の23）と図28；図112下右〕，さらに新しく当用漢字，新かな遣いに版を作り直したのが本書である。紙質はまだ悪い。表題が左からになり，発行所がもとの第一出版に戻ったことに注目したい。



図113：橘口輝政：新版野口英世博士伝。第一出版株式会社，1953（カバー）

150) 帆刈芳之助：趣味の偉人伝，278～291頁。大京社，東京，第20版，1932（図114）。本書の初版は1931年11月に出版されている。従って世界の偉人伝の中に組み込まれたものとしては最初であると考えられる。

151) 正木不如丘：人類の恩人野口英世，328頁。新潮社，東京，1936（図115）。新伝記叢書第1期5冊の中に含まれている。他はヒットラア，エヂソン，クレオパトラ，ナポレオンで，すべて外国



図114：帆刈芝之助：趣味の偉人伝。大京社，1932
左：ケースの背 右：背表紙



図115：正木不如丘：人類の恩人 野口英世。新潮社，1936（表紙）

人である。第1報の37)正木不如丘：野口英世の元版といえるもので、クロス・ハードカバーのしっかりした本である。37)の紹介で、“序に、博士伝に必要な多数の写真を、東京歯科医専の奥村博士初め各教授から拝借したとあるが、1枚の写真も付されていない。戦後間もないので編集の際に割愛されてしまったものであろう”と記したが、本書にはその“多数の写真”が載っている。出版事情が悪い(アート紙が入手できない)ため37)では写真を掲載できなかったものと考えられる。その他は出版社が異なるだけで内容は全く同じである。

152)鈴木要吾：野口英世伝。堀川豊永(編)：近代日本の科学者 第1巻121～153頁。人文閣、東京。1941(図116)。逆境(日本に於ける25年間)と努力(米国に於ける28年間)に分けて記されており、最後に年譜がある。太平洋戦争開戦直前(11月20日)の出版なので紙質が悪いのはやむを得ない。他に北里柴三郎、秦佐八郎、石川千代松、三好 学など計7名の伝記がある。

153)宮瀬睦夫：野口英世とその母。この母この子、15～39頁。第一公論社、東京。1941(図117)。著者宮瀬にはすでに紹介した野口英世の母〔30〕,〔31〕,野口英世と小林先生〔32〕,野口英世〔32〕本来は33)とすべきものを間違えたものである〕,野口英世の手紙〔33〕などの著書がある。本書では当然のことながら野口英世の子供の頃のことを中心に記されている。

154)小林 栄(述)：野口英世の思出。192頁。岩波書店、東京。1942(図118)。第1報および第2報において、野口英世の伝記の中で特に入手したいものとして挙げた4種の中の1つで、初版は1940年(昭和16年)10月30日に発刊されたが、図117の左は1941年2月20日発行の第2版、同右は同年12月20日発行の第3版である。両者を比較すると、戦争が激しくなったため同じ年の発行でありながら後者の紙質は極端に悪くなっているが、内容は全く同じである。なお小林 栄(述)としてあるのは、小林翁が口述するのを沼田史雄が筆録したということである。口述が終ったのが1939年11月24日で、小林翁は翌年7月に死去している。まさにグッドタイミングであった。また、従って本人は本書の初版を見ていないわけである。

155)豊沢豊雄：世界的な細菌学者、野口英世。

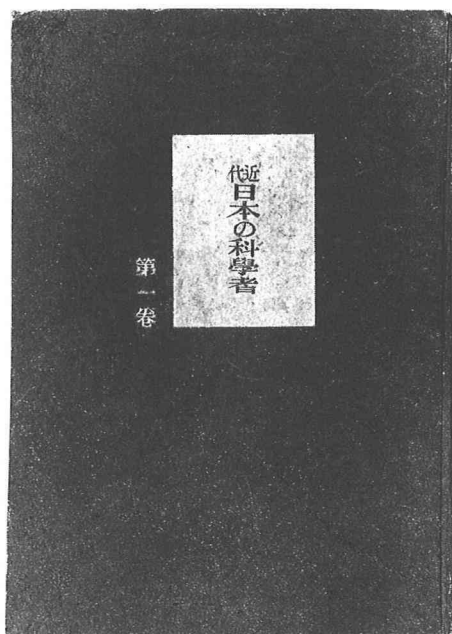


図116：堀川豊永(編)：近代日本の科学者 第1巻。人文閣、1941



図117：宮瀬睦夫：この母この子。第一公論社、1941

日本発明発見物語、206～218頁、高山書院、東京。1942(図119)。序によると本書の母体となったものは5年前に同名で出版されているらしい。それを大幅に加筆訂正し、さらに少年に読みやすくし

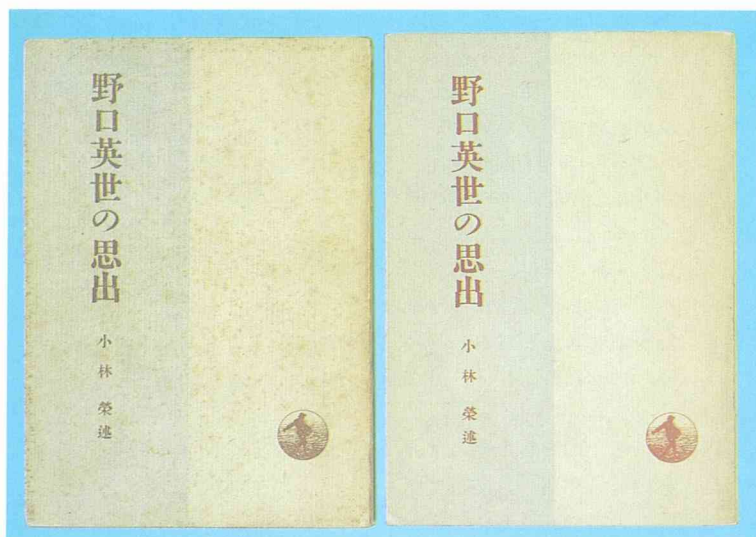


図118：小林 栄（述）：野口英世の思出，岩波書店

左：2版，1942年2月20日

右：3版，1942年12月20日



図119：豊沢豊雄：日本発明発見物語，高山書院，1942

たものが本書である。野口その他40人あまりが掲載されている。紙質は粗悪である。ペーパーバック。

156) 緒方富雄，小川鼎三：現代医学の研究，スピロヘータ培養の成功，麻痺性痴呆・脊髓癱の研究，野口英世と黄熱病。太田正雄（編著）：日本の

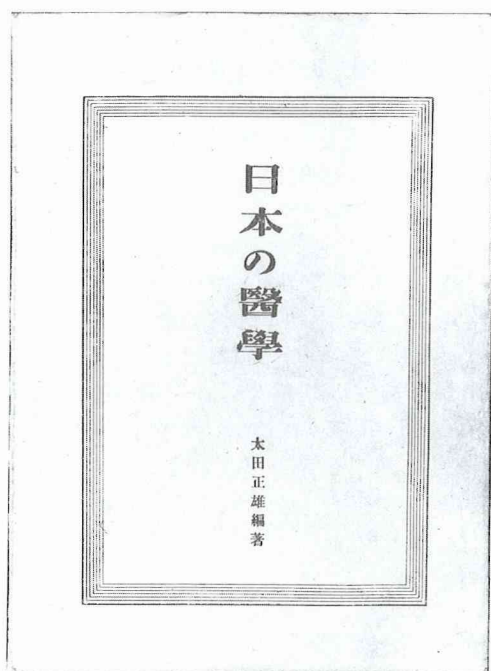


図120：太田正雄（編・著）：日本の医学，民風社，1946

医学，100～102頁。民風社，東京。1946(図120)。野口英世の業績を正確に記している。敗戦のちょうど1年後の昭和21年8月15日に出版されているが，紙質が若干不揃ではあるものの立派な体裁で感心させられる。

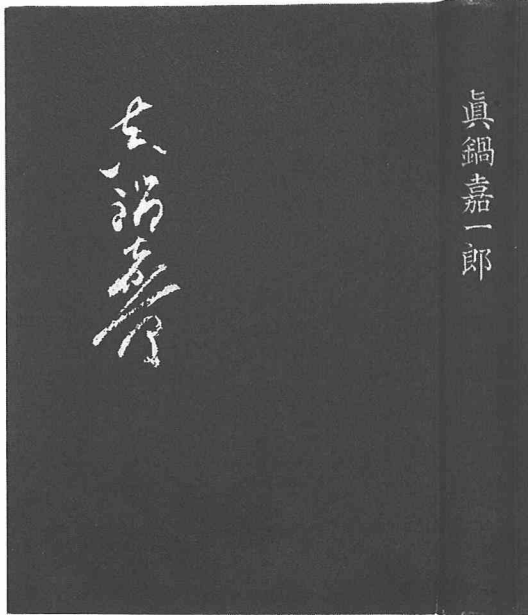


図121：真鍋先生伝記編集会：真鍋嘉一郎。東京大学内日本温泉気候学会，1950
表紙（署名）と背表紙



図123：小学三年生夏休み増刊少年少女科学ガイド。小学館，1960



図122：梁川剛一（絵）：野口英世。たのしい二年生付録，1957

157) 岸谷貞治郎：ノグチ・ヒデオー世界にはこるわが細菌学者一，黄熱病一 その研究に捧げられた尊いぎせいの数々，はるかなるアフリカの野にー 野口博士，黄熱のぎせいとなり，アフリ

カの原野に命をおとすー。微生物発見物語，159～182頁。広島図書，広島。1948。第2報の128）
小泉 丹：野口英世，1949と同じ“銀の鈴文庫”の1冊で，それより早い第1回配本である。子供向けではあるが忠実に語られている。広島市でのしかも戦後間もない出版物なので注意を要する。紙質は悪い。

158) 真鍋先生伝記編集会：真鍋嘉一郎，東京大学内日本温泉気候学会，東京。1950（図121）。東京帝国大学医学部内科物理療法学講座主任教授であった真鍋嘉一郎と野口英世との親交が“初めて野口英世博士と相識る”（123～131頁）〔1913年（大正2年）オーストリアの首都ウィーンで開かれたドイツ自然科学および医学大会での出会いである。〕と“帰朝後の嘉一郎と野口英世の帰朝”（135～140頁）の中で興味深く書かれている。

159) 梁川剛一（絵）：野口英世。たのしい二年生7月号（第1巻第8号）付録，口絵と6～25頁。1957（図122）。2年生の伝記文庫の1つである。小学生の雑誌の付録であり，読み捨てられてしまうと思われるので備忘録としたい。

160) 平井芳夫（文），岩田浩昌（絵）：野口英世。小学三年生夏休み増刊 少年少女科学ガイド，76～88頁。1960（図123）。本号の科学の偉人（表

紙，図121矢印)の中の1人である。これも備忘録である。

161)大石 真(文)，古賀亜十夫(絵)：野口英世，126頁。ポプラ社，東京。1972。カラー版・子

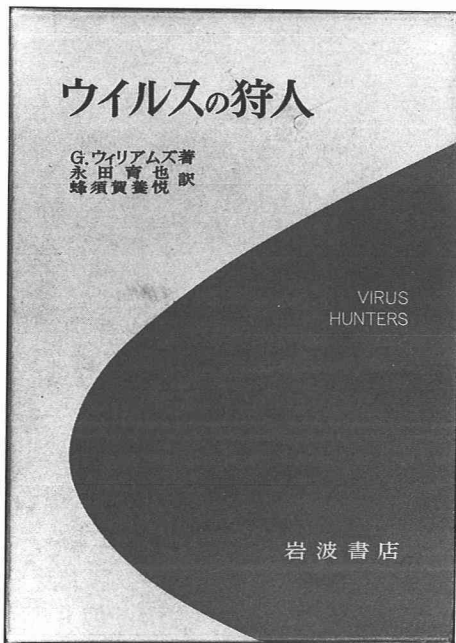


図124：G.ウィリアムズ(著)，永田育也，蜂須賀養悦(訳)：ウィルスの狩人。岩波書店，1964(ケース)



図125：沢田 謙：熱と愛の巨人 野口英世。偕成社，1957(カバー)

どもの伝記の1つである。この伝記シリーズは，日本人12人，外国人18人の計30人から成っている。

162)G. ウィリアムズ(著)，永田育也，蜂須賀養悦(訳)：ウィルスの狩人。483+12頁。岩波書店，東京。1964(図124)。原書は1959年にニューヨークで出版された。"あとがき"によると第3章と第4章は全訳に近いが他の章は抄訳の形をとっているという。その両章に野口英世に関することが記載されているのは幸であった。すなわち第3章ワクチン研究の第1突破口 15タイラー-黄熱の第2の退散の項において，黄熱病が濾過性の"超顕微鏡生物"によって起こることを野口は認めず，ついにアクラでそれに感染して死んでしまうところが述べられており，第4章ワクチン研究の第2突破口 21心の平和をみだすウィルスの項にはフレクスナーと野口がポリオの原因をフレクスナー菌ではないかと考えて，種々な研究をしたことが記されている。

163)沢田 謙：熱と愛の巨人，野口英世。324頁。偕成社，東京。1956(初版)，1957(第2版，図125)。偉人物語文庫全110冊のうちの18である。第1報の74で紹介した1959年版の元版といえるもので，挿絵は違うが，内容はほとんど同じである。

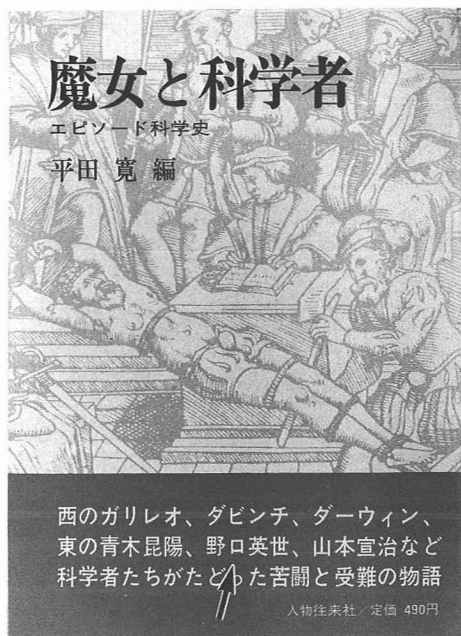


図126：平田 寛(編)：魔女と科学者，エピソード科学史。人物往来社，1967(カバー・帯，矢印)

164)筑波常治：野口英世の虚像。平田寛(編)：魔女と科学者，エピソード科学史，235～245頁。人物往来社，東京。1967 (図126矢印)。本書の小項目は，祭り上げられた虚像，重要研究は二つだ



図127：西山敏夫ほか3名：伝記人物事典 日本編。保育社，1971 (矢印)

け(梅毒スピロヘータと黄熱病)，梅毒の純粋培養の場合，黄熱病研究は失敗だった？，パナマ運河と黄熱病調査，エクアドルとキューバでの評価，致命的な敗北，自殺したか？—なぞの死，から成り，かなり冷やかに野口の業績を論評している。

165)西山敏夫：野口英世。西山敏夫，唐沢道隆，奈街三郎，桂木寛子：伝記人物事典，日本編，356～357頁。保育社，大阪。1971 (図127矢印)。200人の中の1人である。

166)河合三郎(文)，池田浩彰(絵)：野口英世。河合三郎，大野進，丸山浩，中原和夫：医学の進歩につくした人々；野口英世，パスツール，北里柴三郎，フレミング，5～76頁。学習研究社，東京。1977 (図128)。子ども伝記図書館の第1巻である。子ども向けなので野口の少年時代を中心に書かれている。血脇守之助が出てくるが，小林栄は先生となっているのに，なぜ血脇さんなのか不思議である。

167)久保 喬：野口英世，171頁。学習研究社，東京。1979 (図129)。小学生世界の伝記，全12巻の第1巻である。12人のうち日本人は他に宮沢賢治が選ばれているだけである。

168)本多憲児：甦る野口英世の心，ガーナと日本を結ぶ医のかけ橋。346頁。本多憲児教授退官記



図128：河合三郎ほか3名：医学の進歩につくした人びと。学習研究社，1977

左：ケース 右：表紙



図129：久保 喬：野口英世。学習研究社，1979



図131：小山慶太：科学歳時記。丸善，1985（カバー）



図130：本多憲児：甦る野口英世の心、ガーナと日本を結ぶ医のかけ橋。本多憲児教授退官記念事業実行委員会，1983（カバー）

念事業実行委員会，福島，1983（図130）。著者は福島県立福島医科大学の外科学の教授であった。日本の外務省から，ガーナ医科大学に対する医療

協力の要請が福島医科大学にもたらされた理由は，野口の出生地である福島県と野口が黄熱病でたおれたアクラ（ガーナの首都）という関係によるものである。本多教授はその主力メンバーとなり，ついに西アフリカの医学のセンターとして，アクラに野口英世記念基礎医学研究所を設立した。本書には，これらの経緯が詳細に記されているが，その中に“第3章 野口英世の足跡”として伝記がある（47～63頁）。なお表紙の書は本多教授の奥様である道子夫人の揮毫になるものである。

169) 小山慶太：野口英世の死。科学歳時記，87頁。丸善，東京，1985（図131）。“1日1話”形式で，1年間（2月29日を含めて366日）に関係ある出来事を，科学史的に記述したもので，野口英世の命日，5月21日の項に野口英世の死が載っている。この項は，“彼の死について，今なお自殺説が根強く残っている”と結んである。

170) 服部敏良：野口英世。近代諸家の死因，172～174頁。吉川弘文館，東京，1986（図132）。近代著名人の死因を調べたもので，付録には287名の死因一覧表がある。野口英世の項では，その略伝，死因および昭和2年（23年と誤記されている）5月23日付の“東京朝日新聞”に掲載されたニュー

ヨーク特派員21日発の“野口英世博士アフリカに客死す”の記事が再録されている。

171)山田風太郎：野口英世。人間臨終図巻，上巻，238～240頁。徳間書店，東京。1986(図133)。

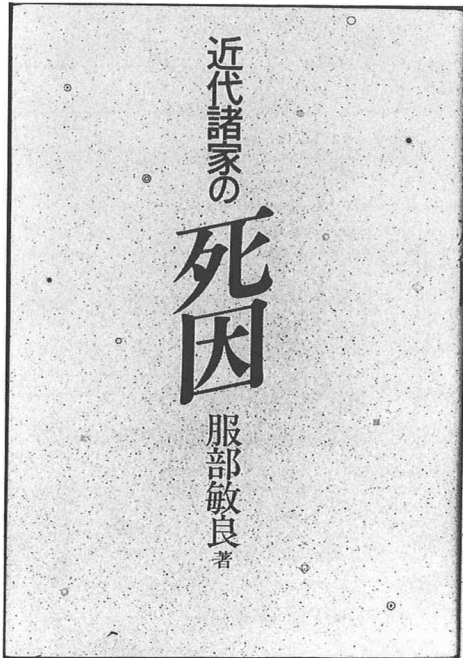


図132：服部敏良：近代諸家の死因。吉川弘文館，1986（カバー）

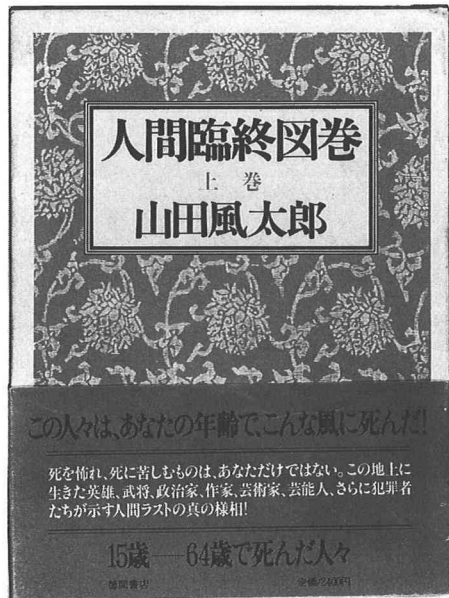


図133：山田風太郎：人間臨終図巻，上巻。徳間書店，1986（ケース，帯）

世界の著名人（日本人が圧倒的に多い，犯罪者を含む）の“人間ラストの真の様相”を記載したもので，上巻は“15歳から64歳で死んだ人々”，下巻は“65歳から百代で死んだ人々”である。野口英世は，上巻の“52歳で死んだ人々”に載っている。その中で，野口が黄熱病に感染して死ぬ直前に“どうも僕にはわからない”とつぶやいた最後の言葉を，“1月に黄熱病にかかって免疫になったはずなのに，なぜふたたびかかったのかわからない”という意味であるとしている。

172)平澤 興：今に見ろ，野口英世博士の偉業(1)，人類の恩人，野口英世博士の偉業(2)。医学の足跡，199～208頁，209～216頁。誠文堂新光社，東京。1987(図134)。“はしがき”に“3年余にわたって，雑誌「子供の科学」にのせた物語を，全国の多数の愛読者の希望によって，今度ひとまとめにして1冊にしたのです。……昭和22年7月”とあり，“あとがき”には“私が40余年前に「子供の科学」に書いた「医学の足跡」が，この度，その出版社たる誠文堂新光社の創立75周年の記念出版として出ることになった。……昭和62年4月7日”とある。昭和22年に1度出版されたものの再出版のように思われるが，文献の調査では，前者について確認できなかった。ヒポクラテスを初め



図134：平澤 興：医学の足跡。誠文堂新光社，1987（カバー）

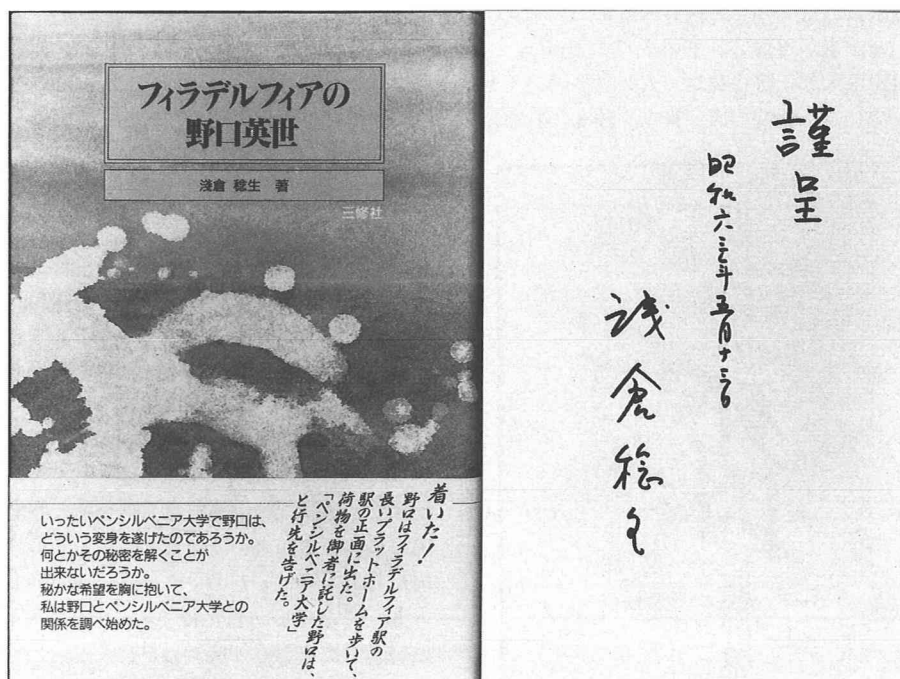


図135：朝倉稔生：フィラデルフィアの野口英世，第2版．三修社，1988

左：カバー・帯

右：見返しの署名

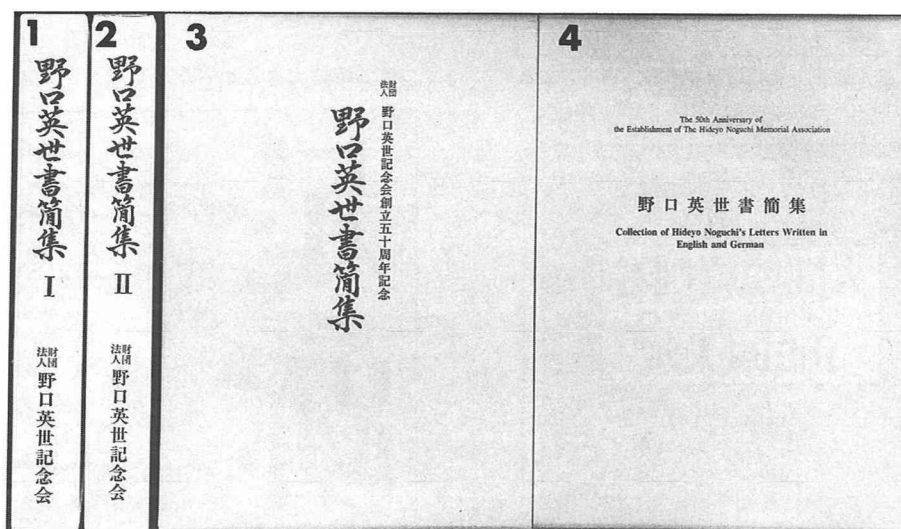


図136：野口英世記念会（編）：野口英世書簡集．1989（ケース）

1：Iの背文字

2：IIの背文字

3：Iの表文字

4：IIの表文字

とし多数の医学者の仕事を解説しているが、野口英世の業績については比較的詳しい。

173) 浅倉稔生：フィラデルフィアの野口英世，第2版，221頁．三修社，1988(図135)．第2報の

144)で紹介してあるが，本書はその再版で，付録に“野口英世研究所設立基金寄付者御芳名”が1頁分ある．なお手持ちの第7版(1990年)では，寄付者名簿が6頁(221～228頁)にふえているの

はすばらしいことである。

174)野口英世記念会(編):野口英世書簡集 I (401+6頁,折込み年譜),II(417頁)。野口英世記念会,東京,1989(図136)。野口英世記念会創立50周年記念出版で,Iは日本文,IIは英文または独文である。第1報の51)丹 実:野口英世第2巻 書簡に収録された書簡はもとより,それ以後に発見されたものを追加し,まさにほぼ完璧な書簡集で,野口英世研究の重要な文献となった。

175)長木大三:野口英世。北里柴三郎とその一門,152~174頁。慶応通信,東京,1989(図137)。北里柴三郎の伝記が主体であるが,その一門7名の中の1人として,やや詳細な記載がある。さらに北里柴三郎と野口英世との関係について,志賀潔と高野六郎の随想が再録されている。

176)木原武一:野口英世一疾走する野心。大人のための偉人伝,175~196頁。新潮社,東京。(図138)。新潮選書の1つである。登場する偉人10人のうち,日本人は野口英世と二宮尊徳の2人である。野口英世については,副題にもあるように,彼を野心家としてとらえ,それを成就させんがために類(たぐい)稀な努力をしたのだと述べている。

177)中山 茂:飛び交った自殺説—野口英世。科学朝日(編),スキャンダルの科学史,3~13頁。朝日新聞社,東京,1989(図139)。日本人24名,

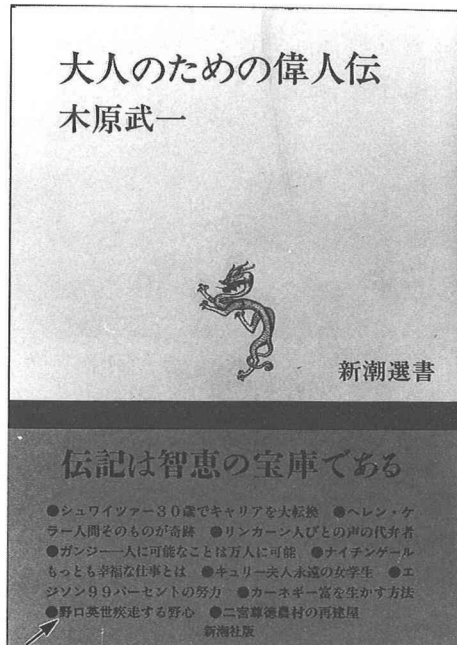


図138:木原武一:大人のための偉人伝。新潮社,1989(カバー・帯,矢印)

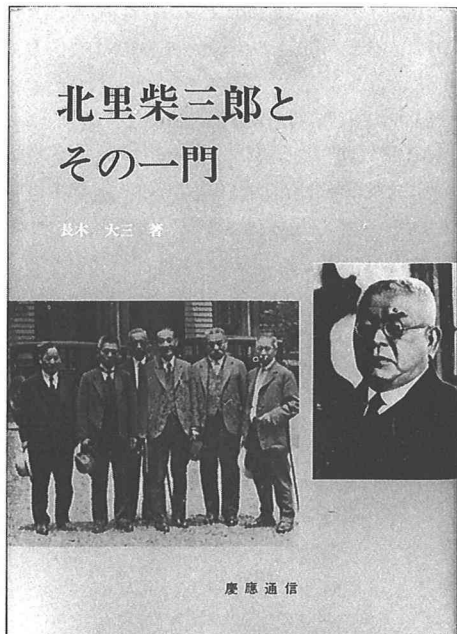


図137:長木大三:北里柴三郎とその一門。慶応通信,1989(カバー)



図139:科学朝日(編):スキャンダルの科学史。朝日新聞社,1989(カバー・帯,矢印)



図140：中山 茂：野口英世。朝日新聞社，1989
(カバー・帯)



図141：立川昭二：病いの人間史，明治・大正・昭和。新潮社，1989 (カバー・帯)

外国人2名をめぐる“事件ノート”である。野口英世については、黄熱病の研究に絞り、南アメリカのエクスアドルやアフリカのアクラでの研究経緯



図142：青木國雄：医外な物語。名古屋大学出版会，1990 (カバー・帯)

を記し、自殺説あるいは他殺説を否定している。170)でふれた東京朝日新聞(1928年5月23日付)の“野口英世博士アフリカで客死す”の記事のコピーが本文中と表紙(図139矢印)に掲載されているのは、朝日新聞社の出版物ならではのことで、貴重な資料である。

178)中山 茂：野口英世，267頁。朝日新聞社，東京。1989(図140)。第1報の53)中山 茂：野口英世(朝日評伝選21)が、朝日選書389に組み入れられたもので、“選書版あとがき”分3頁がふえている。

179)立川昭二：野口英世。病いの人間史，明治・大正・昭和，207～223頁。新潮社，東京。1989(図141)。“その1”には、異常な母子関係や梅毒に罹患したことによる心肥大，“その2”には、チフスに感染して危篤になったことや黄熱病のために命を奪われたこと、“野口英世博士ゆかりの細菌検査室保存をすすめる会”などが述べられている。

180)青木國雄：厄年の病と残された胸像と1つの生命，1つの時代。医外な物語，317～320頁。名古屋大学出版会，名古屋。1990(図142)。前書(179)と同じ流れをくむもので、腸チフス、放蕩(梅毒)からの心臓病などに罹患したこと、黄熱病は、ワイル氏病とは異なるスピロヘータ(レプ

トスピラ)によって起こると信じ、アフリカでそれを証明しようと猛烈な実験を行ったが、ついにその黄熱病で死亡することが記されている。なお、

アフリカに旅立つ前に、フレクスナーによって野口の胸像が作られたこと(野口自身もこれを見ている)、万一の場合は数百ドルを日本の姉に送るように依頼していることの付記がある。

181)橋本三喜男:野口英世。井門 寛他24名:日本史365日臨終総覧, 古代から近代まで, 213頁。歴史と旅, 臨時増刊(第17巻第8号), 秋田書店。1990(図143)。本報の169)小山慶太:科学歳時記と同じ“1日1話”形式で, 1年間(365日)に死去した有名人を, それぞれ1人ずつとりあげ, 小伝と臨終の様子が書かれている。野口英世は当然のことながら5月21日のところに, “昭和3年(1928)”として出ている。なお最後に同じ命日の“田中館愛橘(物理学者)1952”が付記されている。これは他の日付の項も同じで, この付記は0~5名あり, 従って登場人物は, “1230名余”(図143矢印)となる。

182)中嶋繁雄:明治末に世界的名声, 野口英世。秘話, 幕末明治の101人, 170頁。新人物往来社, 東京。1990(図144)。この本は, 維新血刃の巷より(25名), 暗殺・叛乱に逝けり(14名), 戊辰の硝煙の中で(7名), 明治頭官への道(28名), 反権力の旗の下に(11名), 財閥誕生(6名), 日露戦争の将星(10名)の7つの項目から成り, 計81



図143: 歴史と旅臨時増刊, 日本史365日臨終総覧。秋田書店, 1990

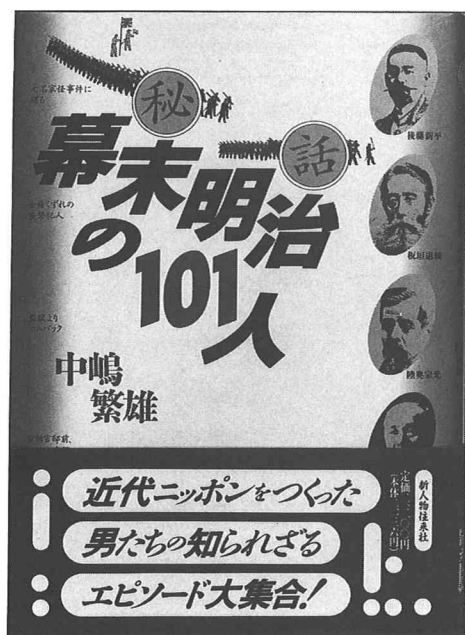


図144: 中嶋繁雄:秘話, 幕末明治の101人。新人物往来社, 1990(カバー・帯)



図145: 立川昭二:最後の手紙。筑摩書房, 1990(カバー・帯)

名が登場している。野口英世は明治頭官への道の項に含まれ、ちょうど1頁に小伝がまとめられている。なおこの項には、他に後藤新平、高橋是清、北里柴三郎らの小伝がある。

183)立川昭二：野口英世、終りはもう見えている。最後の手紙、70～75頁。筑摩書房、東京、1990(図145)。野口が死去する1か月半前の4月7日付アキラから妻のメリーへの手紙(英文なので、その日本語訳は山本厚子)とその前の妻への手紙、および約1年前(1927年5月12日付)ニューヨークから小林 栄への手紙(故国日本への最後の手紙)が記載されている。妻への最後の手紙に“終りはもう見えている。”や“まもなく全て終る。”とあることについて、著者は“野口が無意識になにかを予感していたのであろうか”と考え、さらに“この地を離れるのは5月末になるだろう”と書いてある通りになってしまった(遺体ではあるが)ことにもふれている。

184)天野祐吉：嘘八百ノ, 379頁。文藝春秋、東京、1990(図146)。文春文庫ビジュアル版である。戦前から戦中(1884～1943年)の各種広告を寸評を付して紹介している。この18～19頁に見開きで、大正2年2月東京朝日新聞(?)に載った“求婚廣告”が示されている。表向きは長谷川まつ子(明治29年4月12日生)の求婚広告であるが、実は星製薬株式会社の淋病新薬ホシゴノールと梅毒新薬

ホシサヨリンの宣伝広告である。星製薬は野口英世の強力なパトロンであった星 一の会社である



図147：小説新潮10月臨時増刊、時代小説人物日本史 明治、大正、昭和。新潮社、1990



図146：天野祐吉：嘘八百ノ 文藝春秋、1990 (カバー)



図148：歴史人物なぜなぜ事典25、田中正造、野口英世、北里柴三郎・志賀 潔。ぎょうせい、1991

〔第1報の3), 55)〕. 案の定, この広告の中にも“医学博士米国名誉博士野口英世先生”が出てくる。

185) 星 新一: 野口英世. 時代小説人物日本史 明治, 大正, 昭和, 428~446頁. 新潮社, 東京. 1990 (図147). 小説新潮10月臨時増刊である. 星新一は前記, 星 一の子息で, 従ってすでに野口

英世についての著書も2種ある〔第1報の55)と第2報の131), 132)〕. 本書は55)明治の人物誌を底本としており, 正確な伝記といえることができる。

186) 高島 茂: 世界的な医学者, 野口英世. 栗岩英雄, 中村太郎(監修): ぎょうせい学参まんが歴史人物なぜなぜ事典25, 田中正造, 野口英世, 北里柴三郎・志賀 潔, 65~128頁. ぎょうせい, 東京. 1991 (図148). イラストによる子供向け伝記である。

187) 井上清恒: 野口英世の栄光と悲劇. 医学史ものがたり2, 医人の探索, 305~317頁. 内田老鶴圃, 東京. 1991 (図149). 井上清恒は昭和医科大学(現在の昭和大学医学部)の生理学の教授であった. 晩年, 平易な医学史を雑誌“創健”に連載したが, これをまとめて“医学史ものがたり”

(全3巻)として出版したのが本書である. 表題のような野口英世の伝記は第2巻に掲載されている(1984年1月号). 表紙カバーはマンガ的であるが, 内容はしっかりしている. さらに第3巻 医人の探究にある“黄熱物語”の項(135~145頁, 1985年11月号)にも野口英世がでてくるのは当然のことである(143~144頁). なお第1巻は医人の探訪である。

188) 角田光男(文), 阿部 肇(絵): 野口英世. 77+2頁. ひくまの出版, 舞阪町(静岡県). 1991(図



図149: 井上清恒: 医学史ものがたり2, 医人の探索. 内田老鶴圃, 1991 (カバー)



図150: 角田光男(文), 阿部 肇(絵): 野口英世. ひくまの出版, 1991 (カバー・帯)



図151: 歴史街道, 第39号. PHP 研究所, 1991

150). 新しい日本の伝記, 第1期全10巻の第9巻である. 子供向けなので, 野口英世の少年時代が中心となっている.

189)野口英世—人生の壁をどう乗り越えるか. 歴史街道, 第39号, 17~43頁. PHP研究所, 京都・東京. 1991 (図151). 本誌の特集1である. 3頁に黒鉄ヒロシ:顕微鏡でなく, 虫メガネでのぞく野口英世がある. これは彼の野口英世に対する感情の移り変りを率直に示していて興味深い. また表紙絵 (図151) は彼の作品である. 特集1野口英世の副題の解説として目次に, "幼い頃の手の火傷, 貧しい生活, 超難関の医師国家試験, 遠い異国での研究生生活……英世は「人生の壁」に何度もつきあたる. そして, そのたびに, 困難を打ち破り, より一層大きく羽ばたいていくのであった"とある. この特集は西本鶏介: ナポレオンをめざした愛すべき野心家(18~22頁), 三好京三: 不屈の「志」を育てた故郷・会津 (24~28頁), 渡部昇一: いまこそ野口を再評価するとき (30~35頁), 中村整史朗: 英世を細菌研究に駆りたてたものは何か (36~39頁), 野口英世アルバムと略年譜 (40~43頁) からできている.

190)小林 修 (監修): 野口英世, 梅毒・黄熱病の研究で不滅の業績. 一冊で発明・発見者100人に

学ぶ, 歴史を築いた人たちの業績とエピソード, 176~177頁. 友人社, 東京. 1991. 一冊で100シリーズ14である. 小林 修の監修は明記されているが, 100人の略伝の執筆者はどこにも記されていない. 野口の略伝の中に, パトロンとして血闘守之助だけが出てくる.

191)飯沼信子: 書きなおされる「女の一生」野口英世の妻メリー. ミクロスコピア, 第8巻第3号, 160~166頁. 考古堂書店, 新潟. 1991. 滞米40年の著者がふとした動機から野口英世夫人メリーの生涯を調査し始めたこと, そして地の利を生かし野口英世やメリー夫人についての新しい資料を次々に発見した経過ならびに結果を興味深くまとめている. この中で紹介されている1918年に野口英世が建てたニューヨーク州シャンデーケン山荘は, 彼の死後人手に渡っていたが, 著者 (飯沼) の仲介で, 1992年に, 野口と関係の深い東京歯科大学が購入した. 喜ばしいことである.

192)市川能里 (絵): 伝染病の研究, 野口英世. 飯野貞雄 (監修): 世界の発明発見 おもしろコミック, 56~59頁. 小学三年生, 第46巻第9号付録. 小学館. 1991 (図152). 本書には12名が登場しているが, 日本人は野口英世と北里柴三郎の2名である. まんがの作画者として小井土 繁, 方

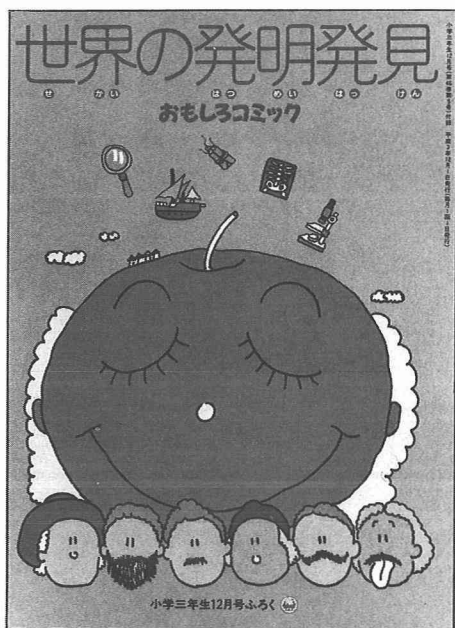


図152: 飯野貞雄 (監修): 世界の発明発見 おもしろコミック. 小学三年生付録, 1991

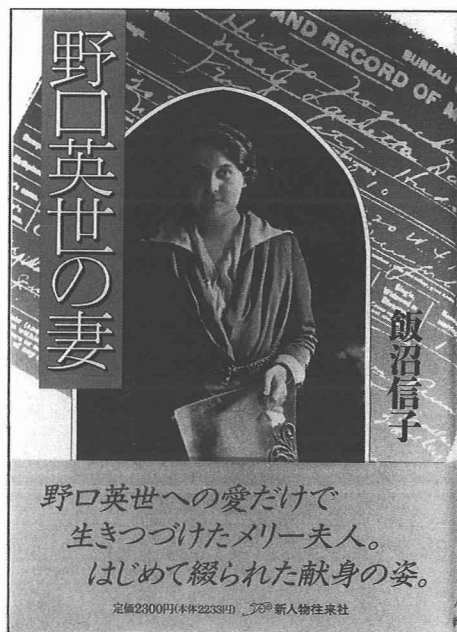


図153: 飯沼信子: 野口英世の妻. 新人物往来社, 1992 (カバー・帯)

倉陽二、市川能里の名前が挙げられている。しかし誰がどこを担当したのかは記されていない。幸いなことに本書を恵与下さった市川博保先生から、野口英世のところは末娘の市川能里が描いたものであるとの情報がもたらされた。本書も小学生雑誌の付録なので読み捨てられてしまう恐れがあり、備忘録としたい。

193)飯沼信子：野口英世の妻。202頁。新人物往来社、東京。1992 (図153)。191)の筆者が、さらに得た調査資料に基づいて、メリー夫人を中心に1冊の本にまとめたもので、野口英世の妻の単行書は本書をもって嚆矢とする。冒頭に新たに発見された“野口英世の遺言”について述べ、メリー夫人は日本で喧伝されているような悪妻ではないことを説いている。最後にある“後日談”には、191)に記した野口英世のシャンデーケン山荘を、著者の仲介で、東京歯科大学が購入するに至る経過が詳細に述べられている。

194)山本厚子：野口英世 知られざる軌跡—メリー・ロレッタ・ダージスとの出会い、325頁。出手書房新社、東京。1992 (図154)。5月21日(野口英世の命日)の発行である。前書193)の飯沼信子と同じように、本書の著者も全国各地をまわって取材した。しかも本書では、従来の伝記ではきわめて稀薄なメキシコ、パナマ、エクアドル、ペルー、ブラジルのラテンアメリカ諸国における野口英世の活躍を追跡しており、メリー夫人や研究助手であったエベリン・B・ティルデンについても好意的に記載してある。最後の方には筑波常治らの偶像破壊論にも言及している。298頁の1行目“脊椎カリエス”は“脊椎カリエス”の誤りである。

195)新藤兼人(作)、吉田 純(絵)：ノグチの母—野口英世物語一。195+2頁。小学館、東京。1992 (図155)。小学館コンパクトの1冊である。第1報の46)渡辺淳一：遠き落日が映画化され、1992年7月4日から松竹系映画館で公開されるのを記念して出版された。著者は、その映画の監督である。帯にはその映画のPRが出ている(図155)。偶然ではあるが、写真と絵の違いはあるものの、前書194)と同じポーズの野口英世が表紙になっている。

196)佐藤伸雄：今なぜ野口英世なのか。小学校で学ぶ日本歴史の人物像 下、165~170頁。新日



図154：山本厚子：野口英世 知られざる軌跡。山手書房新社，1992（カバー）



図155：新藤兼人(作)、吉田 純(絵)：ノグチの母—野口英世物語一。小学館，1992(帯)

本出版社、東京。1992。新日本新書451である。小学校で学ぶ日本歴史の人物像の上下2冊で、学習指導要領で定めた42名を解説している。そして野口英世は最後の42人目に登場した。その略伝の最後に、在野の立場で国家権力に抵抗しながら成果



図156：渡辺淳一：遠き落日。角川書店

左：(上)21版

右：(下)19版。ともに1992年7月20日発行（カバー・帯）

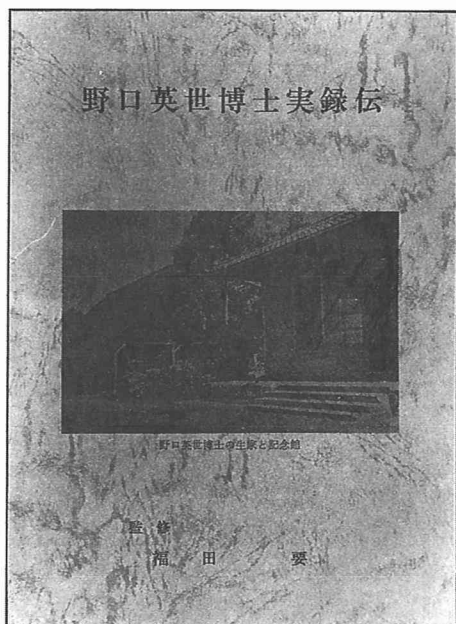


図157：奥田秀次（福田 要，監修）：野口英世博士実録伝。日本産業研究所，1992（？）

をあげた北里柴三郎，志賀 潔，秦佐八郎と野口英世とを比較し，“はたしてどちらが教材としてよい選択でしょうか。”と記している。そして国際化が叫ばれる今日だから，野口英世が再登場しているのではないかと結んでいる。

197) 渡辺淳一：遠き落日(上)第21版，316頁(下)第19版，322頁。角川書店，東京。ともに1992年7月20日発行（図156）。第2報の138)の版違いである。本報195)で紹介したように，映画化されたのに伴い，そのスチール写真を表紙カバーに変え，帯にもその映画のPRを入れた。この映画では野口英世を三上博史，母シカを三田佳子が演じている。

198) 奥田秀次(福田 要，監修)：野口英世実録伝。55+1頁。日本産業研究所，東京。1992(?) (図157)。何とも不思議な出版物である。奥付に，発行所と印刷所の名前と所在地，定価600円の記載はあるが，重要な発行日がない。1頁に緒言があり，“昭和三年 八十二翁 奥田秀次誌”と記されているが，新漢字，新かな遣いである。本文もそれと同様で，さらに6頁には“東京歯科医学院(現在の東京歯科大学の前身)”という記事もある。第一編(2～25頁)は伝記を主体とし，第二編(25～27頁)は追悼録で，最後(51～54頁)に年譜が付いている。附言(55頁)，追記(1頁添付)があるが，いずれも読みにくい文章である。この小冊子は，野口英世の逝去間もなく地元(福島県)で出版されたがあまり知られることなく(文献目録などには見られない)，最近(多分1992年)になって，ワープロで作り直して出版したものと想像される。

従って復刻版ではない。誤植の多いのも気になった。

あ と が き

以上51種58冊の野口英世関連の単行書ならびに雑誌を記載・紹介した。従って第1報ならびに第2報と合わせると、199種234冊になる。前報でぜひ入手したいものとして挙げた4種のうち、小林栄(述)：野口英世の思出、岩波書店(1941年)を、2冊も入手できたことは今回の最大の収穫といえる。そのうちの1冊は第3版で、1989年12月25日に中村澄夫氏から恵与されたものであり、他の1冊(第2版)は、その後の1991年2月25日に、東京都神田の古書店で発見し購入したものである。

追 補

本報の校正中に次の書を手に入れたので追加しておきたい。またスペースがあるので、外国で発行された野口英世の郵便切手を記録する。なお日本で文化人切手第1号となった野口英世の切手は第1報に示してある。

199)平澤 興：野口英世博士の偉業(1)今にみ

世界の偉人伝の中に組み込まれたものとして最初と考えられる帆刈芳之助：趣味の偉人伝、大京社(1931年)や正木不如丘：人類の恩人野口英世、新潮社(1936年)なども注目すべきものである。

最後に、多大のご協力を戴いた神奈川歯科大学生物学教室講師 中村澄夫博士、歯科医師 市川博保博士、財団法人野口英世記念会に対し満腔の謝意を表する。

参 考 文 献

- 1) 矢ヶ崎 康, 加藤倉三, 枝 重夫, 1987: 松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記. 松本歯学, 13: 1~34.
- 2) 矢ヶ崎 康, 加藤倉三, 枝 重夫, 1989: 松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記(補遺). 松本歯学, 15: 217~231.

ろ、(2)人類の恩人。医学のあゆみ、204~223頁。誠文堂新光社、東京。1947(図159)。敗戦直後の発行なので紙質が悪い。本報の172)に、"(医学の足跡は)昭和22年に1度出版されたものの再出版のように思われるが(中略)確認できなかった"と記したが、本書はその元版であった。従って元版の書名を著者自身が誤認していることになる。



図159：平澤 興：医学のあゆみ。誠文堂新光社，1947(表紙絵はヴェザリウスの解剖図)



図160：野口英世が描かれている外国の切手

- 1：エクアドル(南米)の大幅切手(1976年11月11日発行)
- 2：エクアドルの普通判の切手(1976年11月11日発行)
- 3：2に紫外線を当てたもので、文字が現れている。
- 4：ガイアナ(ギアナ、南米)の切手(1993年7月発行)